

最近の国際的な研究活動紹介

【The ALTE Framework of Language Examinations】

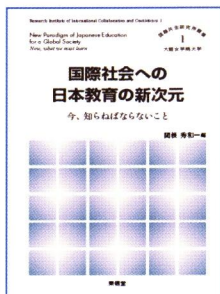
ヨーロッパにおける多言語政策を推進するために設立されたALTE (The Association of Language Testers in Europe: <http://www.alte.org/index.php>)は、EU諸国が実施している多様な言語テストにおける言語能力レベルの共通尺度として“The ALTE Framework of Language Examinations”を開発した。これは、学習者がそれぞれのレベルで当該言語を使用して何が出来るかを記述したものである。他の国への就職や大学への入学などに要する言語能力を証明するものとして利用されており、受験者は年間200万人を超える。日本の大学においても、海外を含む大学間で様々な連携が盛んになっており、今後、各大学では、学生の英語能力を客観的に記述し、学生間や大学間の英語レベルの比較が可能になるような装置が必要となってくると予想される。大学で実施される教育課程や使用するテストが異なっても「～ができる」というような共通の「英語能力測定尺度」があれば、各大学が求める英語到達能力を共通尺度で定量化できることになり、各大学にとっても大きなメリットになる。これにより、必要とされる教授法やカリキュラムの構築も容易になると考えられる。(智原 哲郎)

書籍紹介

国際共生研究所叢書 1

『国際社会への日本教育の新次元 今、知らねばならないこと』 関根 秀和編 (東信堂, 2009年10月刊, 四六判 192ページ, ¥1,200)

本書は、国際通用性を厳しく求められている我が国の学校教育と大学教育の在り方について理解を深める機会として2008年10月と11月の2回にわたり開催した本学国際研究所開設記念講座を収録したものである。筆者は、日本および国際的教育行政に関する第一人者4氏。



はじめに 関根 秀和

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 第1章 世界と日本の教育改革     | 鳥居 泰彦 |
| 第2章 中央教育行政の視点と課題   | 合田 隆史 |
| 第3章 学校教育評価の動向と課題   | 木村 孟  |
| 第4章 初等・中等教育が立つべき視点 | 田村 哲夫 |
| おわりに 関根 秀和         |       |

大阪女学院の歴史

大阪女学院は、米国カンバーランド長老教会によって1884(明治17)年に創設されたウキルミナ女学校を母体としています。創設者たちが力を注いだ教育は、人格を柱とする人間の内面的な自己形成と、社会的な変革のエネルギーを併せもつプロテスタンティズムの影響を色濃く持っていました。

その伝統を受け継ぎ、1968年に短期大学(英語科)を開学。コンテンツ・ベースの教授法による独自の英語カリキュラムを確立し、徹底した教養教育と英語教育の組み合わせにより、学生のアイデンティティ形成を促し、社会に積極的に関わる意欲を育てるなど、新しい英語教育の姿を生み出してきました。

2004年には四年制大学(国際・英語学部)を開学。グローバルなレベルでの英語によるコミュニケーション能力と専門的能力を駆使し、国際社会や地域社会を舞台に多くの人々と協働しつつ、現代文明が崩壊しかねない危機と課題の認識、それらの諸課題に積極的にコミットしうるリーダーシップの担い手となる人材の育成をめざしています。

2009年には大学院「21世紀国際共生研究科平和・人権システム専攻」を開設。人権に対する認識と社会的使命への自覚に深く根ざし、世界的なネットワークを通じて、21世紀の世界が抱える困難な諸課題の解決、国際平和の実現に貢献できる女性の育成に取り組んでいます。



ウキルミナの教育  
モルガン校長



戦後、焼野原からの  
再出発



ウキルミナの森(現在)

編集後記

このたび、本学国際共生研究所ニュースレター創刊号を発行いたしました。このニュースレターでは、本学研究所の三つのプロジェクト研究の動向や、国際共生に関する研究や話題を紹介・提供していきます。4月と10月の年2回発行する予定です。

次回は10月に発行します。(く・て・た・な)